

## 法海寺縁起



法海寺住職  
立松 圓浄

この度、法海寺仁王門、仁王尊像の修復にあたり、八幡地区の皆々様にはご支援ご協力を賜り、法海寺住職として身に余る光栄に存じ上げますと共に、中心より厚く御礼申し上げます。

そもそも法海寺とは白鳳期の天智七年八月三日に創建され、新羅の明信王太子、沙門道行が開基であると法海寺儀軌にあります。明信王は日本を降伏するという野望を抱いていたが、日本には三種の神器が有り、その神器が偉大な力を持つているので、それが妨げになっている。それ故、神器を盗み取れば、日本は力を失って新羅に降るであろうと思いい立ち、太子に仏道修行の法力を得させ、名を道行と改め日本に送り込みました。やがて道行は熱田神宮より草薙の剣を盗み出すことに成功しましたが、帰国の途中捕らえられました。その事が日本書紀、天智七年の条に記載されております。この事柄は、尾張国熱田太神宮縁起、元享

釈書、扶桑略記にも書かれています。

捕らえられた道行は土牢に閉じこめられました。まもなく、天智天皇が病氣となり、占ってみたところ土牢に捕らえられている道行の祟りであると告げられました。そこで許された道行は改心し、春日大明神に祈念したところ、薬師如来の尊像を授かりました。ほどなく天智天皇が快復なされ、その功により、法海寺の寺号を賜り伽藍を創建、山階清水庄より寺本荘と改名しました。

法海寺の最盛期には、本坊を中心として内六坊、外六坊三重塔、二百八十町歩の寺領を有する知多半島随一の名刹でした。諸行無常の言葉の如く、千三百有余年の間には栄枯盛衰あり現在に至っております。県、市指定の文化財も多数あり、皆様と共にお護して参りたいと存じます。



法海寺本堂